

障害児専門の保育所

療育経験者らが対応（東京・杉並で全国初）

障害のある子供たちを専門に預かる全国初の保育所として「障害児保育園ヘレン」が、東京都杉並区内のビルにオープンした。長時間預かりにも対応し、子供の育ちと働く親を支える存在となっている。

運営するのは訪問型の病児保育事業などを手がける認定NPO法人「フローレンス」（千代田区）で、昨年9月に開いた。

対象は就学前の子供で、定員15人。たんの吸引や酸素導入など、生命を維持するための「医療的ケア」を必要とする子を含む重症心身障害児や、肢体不自由の子供たちが通う。保育士や看護師、作業療法士といった障害児の療育や保育経験のあるスタッフ11人が、最大10.5時間の保育を実施する。一般の保育所同様に遊びを中心に、発達を促す療育も行っている。地域で医療的ケアが必要な重度心身障害児は増えているが、受け入れ可能な保育所は少ない。就学前の障害児が通う場には児童発達支援事業所があるが、療育目的の施設で、長時間預かりなどの保育的機能には対応していない。このため、仕事をもつ

親は子供の預け先がなく、就労継続が難しいという課題がある。

ヘレンに通う2歳の平井朱灯^{あけび}ちゃんは、口から食事を取ることが難しく、胃ろうから栄養や水分を取る。当初は区内の保育所入所を希望したが医療的ケアが必要なため断られた。

母の未香さん（37）は自営業で、ヘレン入園までの間は、ベビーシッターを利用したり、朱灯ちゃんを職場に連れていったりしてきた。「仕事を続ける上でヘレンができて本当に助かる。一方で障害の有無にかかわらず子供が同じ所で保育を受けられる社会になってほしいと強く願う」と話す。

開設には、杉並区も協力した。施設の初期投資費用のほか、利用者の保育料も助成する。

ヘレン担当者は「医療的なケアの必要な子供の保育のニーズは高い一方、預かる場合は少なく、親は仕事を辞めざるをえない状況がある。ヘレンの取り組みが各地のモデルとなれば」と話す。

（毎日新聞・東京 2015年2月8日）

パラリンピック、超党派議連が2020年向けワーキングチーム

超党派でつくる「障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟」（会長＝中曽根弘文・元外務大臣）は9日の総会で、2020年のパラリンピック東京大会に向け、野田聖子・自民党前総務会長を座長とするワーキングチーム（WT）の設置を決めた。

WTの顧問にはボランティア活動に熱心なことで

も知られる俳優の杉良太郎さんと、人気音楽グループEXILE（エグザイル）のリーダーHIROさんが就任する。

WTでは、選手強化や公共施設のバリアフリー化などについて議論し、政府に提言する方針。

（福祉新聞・第2704号 2015年2月16日）